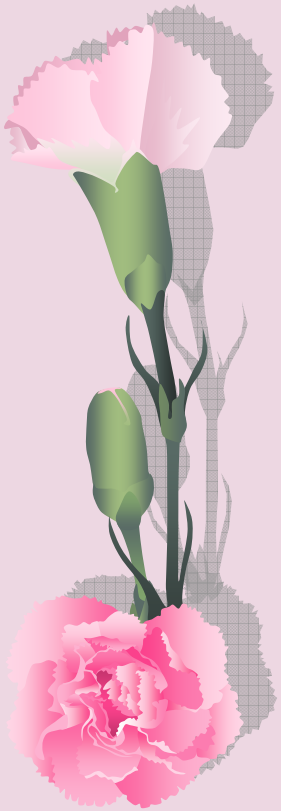
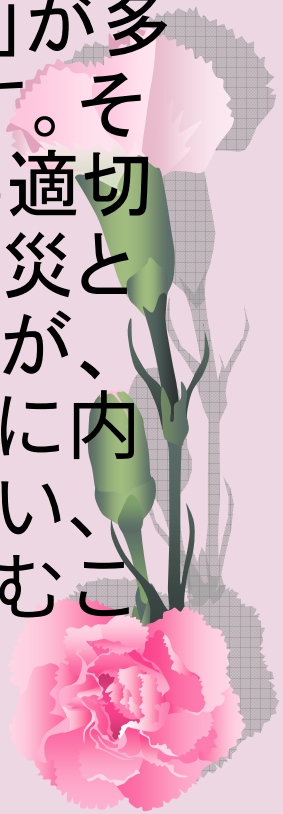
2004防災教育チャレンジプラン
わくわく！ドキドキ！サバイバル体験



東山学区連絡協議会
（名古屋市千種区東山学区）

目的

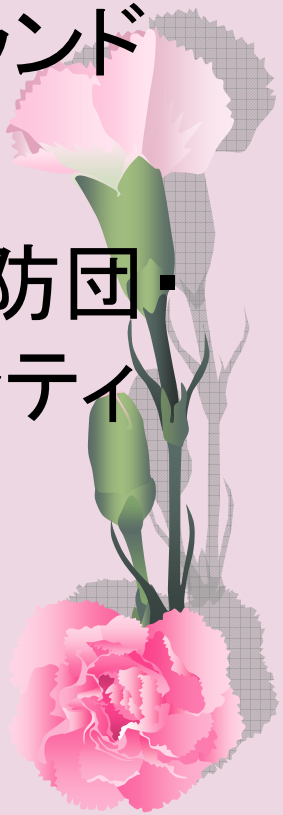
- 東海地震などへの警戒が高まる中、個人や家族、地域でできる対策を講じておくことが急務な課題となっています。しかし、各種防災講演会や防災訓練、広報誌やマスコミ情報のいずれを見ても、「大人の視点」が多く、「子どもの視点」に立った防災対策が必要です。そこで、地域に住む子どもたちが、緊急時に対する適切な対処方法を学ぶ機会を企画しました。また、防災というととかく固い「訓練」というイメージがありますが、子どもたちが自ら考えたり、行動する参加型に内容を特化して、楽しく、そして災害に負けない、たくましい地域の担い手を、地域をあげて育むことを目的とします。



実施概要

- 日時：2004年8月3日（火）～4日（水）
  一泊二日
- 会場：名古屋市立東山小学校体育館・グランド
- 参加者：総計136名

小学生51名、小学校教員4名、町内会・消防団・PTAなど70名、NPO10名、その他、ボランティア団体、千種区役所、千種消防署など



非常持ち出し袋を考えよう！

～各自が持参した中身をみんなでチェックしました

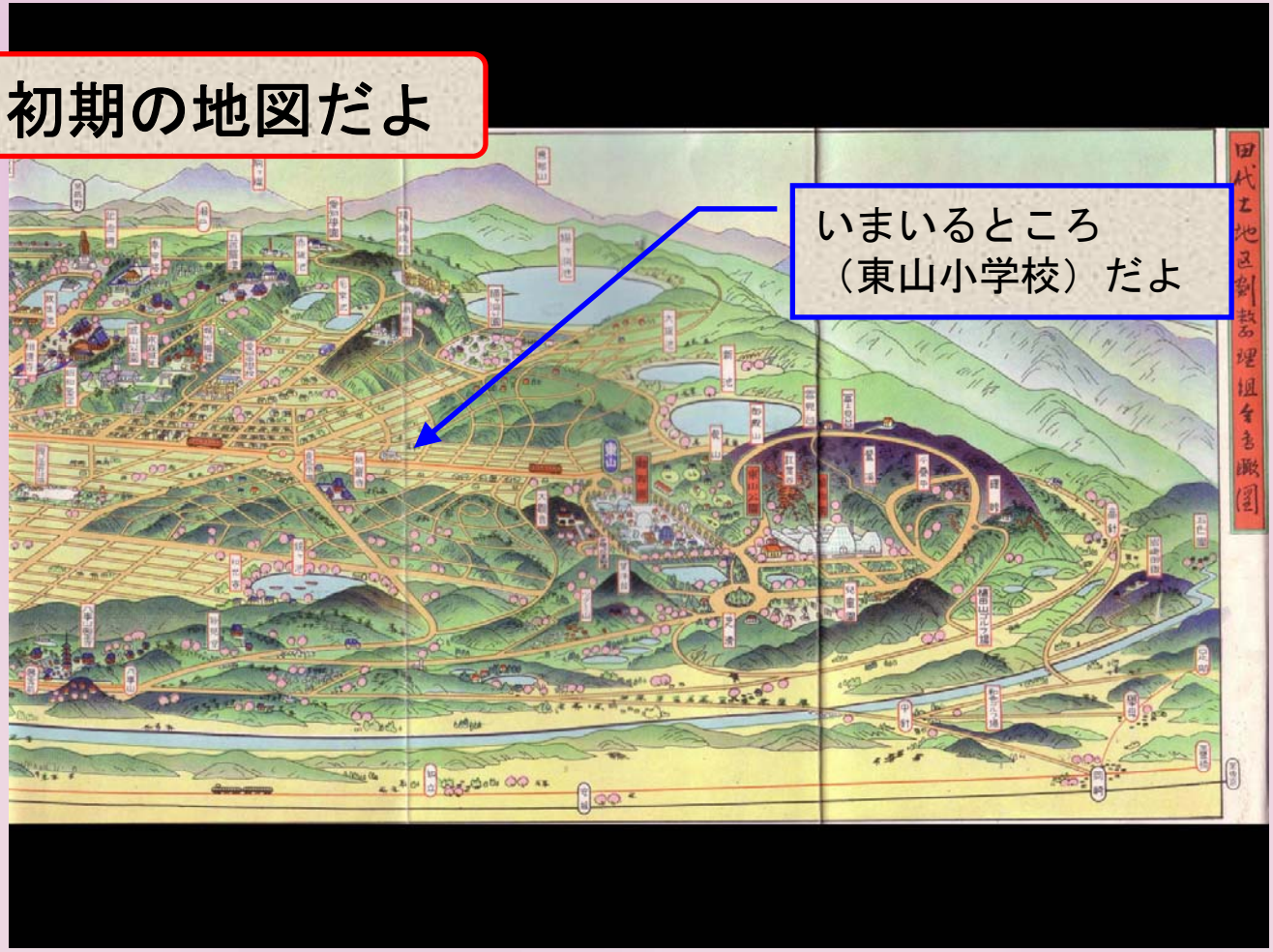
炊き出し体験

～地域のお年よりも招待してみんなで食べました

東山学区の歴史の話

～長年住んでいるおじいちゃんから昔のことを聞きました

昭和初期の地図だよ



防災一座の協力による朝食

～かんぱんも工夫でおいしかった

自分の家は安全か？

～PTAによる寸劇は迫力があった

ふりかえりとまとめ
～各グループで2日間の成果を発表

成果

- 災害前の地震対策についての網羅的な学習の場となった。
- いわゆる講義形式ではなく、できるだけ体験できる時間帯を設定したことで、どのプログラムも子どもたちが生き生きとしていた。
- 2日目の最終的な発表を「地域の人と仲良くする」とした班がでるなど、単なる防災教育にとどまらない成果が得られた。
- 体験後、子どもが一生懸命「持ち出し袋」や「家具の配置換え」などを訴えた。親としても本当に考えなければならないと思った。
- この体験から約1カ月後の9月に、本当に地震が来て結構揺れた。家族の中で子どもが一番に反応して、身を保護しようとした。
- 本来は学校教育の現場で実施すべきである。今後は学校に働きかけて、全生徒が体験できるようにしていきたい。
- 子どもの避難体験であったが、リーダーや大人の注意事項によく従ってトラブルなく体験できた。しかし、地震本番の避難所は大人ばかり。運営や管理をうまく仕切ることができるだろうかという問題意識・課題が持てた。
- 地域・学校・NPOなど、これまでも連携していた点が成功の秘訣である。今後もいい関係を保っていきたい。